

この美味しさを継待するため

若松一中 二年 小松 夢歩

日本の水道水は美味しい。この言葉を私は何度も耳にしてきました。学校の授業や家族との会話中に「水」についての話題が上がる。と必ず誰かはこの言葉を発します。私も運動後に、せかせかとして水道水を飲んだときそう思いました。けれど、「美味しい」とは何をも「おいしい」のぞしよ。うか。考えてみると、水道水の「味」は甘い訳でも塩辛い訳でもないよ

うに感じます。つまり、水道水の美味しさとは何かの「味」ではないと考えます。そこで私は日本の水道水の美味しさとは何なのか調べてみることにしました。

一つ目は軟水であることだと考えます。日本の地層はミネラルの少ない火成岩が中心で山の傾斜も急なことで雨水が短時間で海へ流れそうです。そのため、ミネラルが水に少量しか溶け出さず軟水が多くなります。軟水は硬水と比べて癖が少なく「まろやかな味

いがするといわれています。この味わいが日本の和食とも相性の良い水道水の美味しさの一つだと思っています。

二つ目は安全性だと考えます。日本では水質基準を厳しく定めているため、飲み続けても健康上の問題はないものだとされています。浮遊物の沈殿、濾過、消毒などの、なんと二千種類といわれる検査を行なっているため、私達は安心して飲むことができます。その安心が美味しさの隠し味であるのではないでし

ょうか。

三つ目は、臭いだと考えます。日本の水質基準の項目には「カビの臭い」というものがあります。これは、日本が独自で定めた基準となつています。臭いがついていると、生活用水としても飲用水としても使いづらさを感じると思いいます。それは、水道水に限らず味や見た目が良いどんな物にしても同じことがいえるのではないでしうか。

以上の三つの観点が、日本の水道水の美味

しさの正体だと考えます。

このような美味しい水道水をそのまま飲める国は、日本を含め十四ヶ国だそうです。日本がこんなにも水道水に恵まれているのには理由があります。

それは、降水量が多いこと、インフラが整っていること、節水の取り組みが増えたことだと思えます。

日本は世界的にも一年を通して雨や雪が多く降り、一九七一年から二〇〇〇年にかけての平均の年間降水量は、一七一八ミリメートルです。八八〇ミリメートルの世界平均と比べると、とても恵まれていることがわかります。

また、日本には三千余りのダムがあることで多くの水を保有されており、九十七パーセント以上で水道が通っていることから日本のインフラは世界と比較してもかなり整っているといえるでしょう。

そして、最近ではSDGsの認識が高まった

こともあり、節水の技術や設備が整って水の消費量が抑えられています。

このように、今は水道水に恵まれている日本でも、これがいつまでも続くとは限りません。これを継続させるためには、「誰かが」ではなく、「皆が」協力して守る取り組みをすることが必要だと考えます。そこで、私達でもできる取り組みは何でしょうか。

一つは、汚染源となる物を流さないことです。汚染源である油を五百ミリリットル流し

た時、魚が住める水質にするためには浴槽五六〇杯分、つまり約一六八三〇リットルの水が必要である、ときいたとき私はあまりの水の量の多さにゾツとしたことを覚えています。家庭で何気なく流してしまっている油や洗剤を何気なくですましてはいけません。つくづく感じました。

そして、一度に使う量を考えるということが一番身近にできることなのではないでしょうか。手洗い時、水をくむ時、水を飲む時、

入浴時などと家庭生活内で水を使う場面は幾つもあります。水を飲む時は蛇口から直接飲むのではなくコップにくんだり、浴槽のお湯を再利用したりと一つ一つの場面が工夫されれば、消費量を大幅に削減することができます。日本の水道水は美味しい。これは、当たり前なことでも、ずっと続くことでもありません。この美味しさの継続には、一人一人の意識、取り組み、感謝の気持ちが必要だと私は感じました。水道水のように、何気なく私達が使っている物にこそ多くの手間がかかっています、守っています、かかればなりません。そして、今後はこれが日本に止まらず世界各国でも同じことがいえるようにすることが課題になるのではないのでしょうか。どこか誰かが、それはなく、どこでも皆が美味しく飲める水道水を目指し、私は自分ができることを考えて実行していきます。